

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
3年後期	3	2	選択
担当教員			
小杉 大輔			
添付ファイル			
講義概要			
社会心理学と産業・組織心理学の立場から、さまざまな対人場面、あるいは仕事に取り組む際に直面する諸問題と、人々がそれらを認知するのかについて講義する。			
授業計画	1回	社会心理学の視点 社会心理学の定義、研究の方法、研究の範囲について説明する。 準備学習：過去に受講した心理学系科目の資料をもとに、心理学的な考え方について復習しておく。 課題：日常的な印象形成の手がかりについて説明する。	
	2回	印象形成 印象形成のプロセスについて、実験的研究を踏まえて解説する。 印象形成の手がかりについてAL②をおこなう。 [演習問題]簡単な実験演習を行う 準備学習：第1講資料をもとに、社会心理学の研究法、社会的認知とはどのようなことかについて復習する。 課題：ステレオタイプの事例について、自分の経験と調べ学習をもとに説明する。	
	3回	ステレオタイプ ステレオタイプ影響およびステレオタイプが維持されるのはなぜかについて説明する。 ステレオタイプの事例についてAL②をおこなう。 準備学習：社会的推論のエラーの事例をもとに、自分の経験を記述しておく 課題：印象形成およびステレオタイプの維持についてのモデルを理解する（AL④）。	
	4回	社会的推論 原因帰属のモデルと社会的推論のバイアス、エラーについて説明する。 準備学習：自らの社会的推論について内省し、その特徴を説明できるようにする 課題：合理的な原因帰属と実際の原因帰属の違いを理解する（AL④）。	
	5回	自己① 自己概念、自己意識についての理論の説明をおこなう。 心理尺度の結果についてAL②をおこなう。 [演習問題]心理尺度 準備学習：演習問題の結果から自己の傾向について考える 課題：心理尺度に回答し、数値をまとめる	
	6回	自己② 自己評価と自己呈示、自己開示について解説する。 心理尺度の結果についてAL②をおこなう。 [演習問題]心理尺度 準備学習：自らが行っている自己呈示、自己開示について分析的に理解する 課題：自己評価を維持するために人がおこなうことについて復習する（AL④）。	
	7回	説得的コミュニケーション① 態度、説得、依頼と要請についての基礎的事項を説明する。 心理尺度の結果についてAL②をおこなう。 準備学習：自らが広告の情報処理をおこなった場面を想起し、どのような情報に注目しているかについて論理的に考察する。 課題：自らが他者を説得したり、他者に説得されたりした経験について整理する（AL④）。	
	8回	説得的コミュニケーション② 段階的要請法および説得のモデルについて解説する。 [確認テスト（レポート課題）] 準備学習：対人援助についての具体的な場面を想起し、そこでの自分の振る舞いと心理について論理的に考察する。 課題：段階的要請法について、自らの経験に基づいて具体的に説明できるようにする（AL④）。	
	9回	意図的ではない対人的影響 社会的手抜き、心理的リアクタンス、漏れ聞き効果等について解説する。 これらの事項についての経験についてAL②をおこなう。 準備学習：自らがどのような集団に所属し、それぞれの集団でどのように振る舞うかについて整理する。 課題：社会的手抜き、漏れ聞き効果のメカニズムについて自らの経験にもとづき、論理的に理解する（AL④）。	
	10回	集団 同調、集団の意思決定、集団と集団の関係、集団の対立の解消について解説する。 準備学習：職場のような集団でのコミュニケーションや動機づけについて資料にもとづいて考察する。 課題：集団における人の行動の特性について、資料と自らの経験に基づいて復習する（AL④）。	

	11回 ワークモチベーション ワークモチベーションの理論と企業におけるワークモチベーション維持・高揚への取り組みについて解説する。 準備学習：自分がどんなときにやる気になり、どんなときにやる気なくなるのか考える。社員が生き生きと働いている企業の例について調べる。 課題：企業におけるモチベーションマネジメントについて調べ、授業内容との対応を考える（AL④）。 12回 リーダーシップ リーダーシップの基礎的な理論について解説する。 準備学習：メンバーのワークモチベーションを高めるようなリーダーシップについて具体例を調べる。 課題：ワークモチベーションとリーダーシップの理論を関連づけて理解する（AL④）。 13回 消費行動の心理学 心理学的な研究が消費行動の理解やマーケティング活動にどのような活かされているのかについて解説する。 第8講の確認テストについてAL③をおこなう。 [確認テスト（レポート課題）] 準備学習：学校や職場における対人関係を想起し、そこで生じるトラブルについて考える。 課題：自分が入社したいと思う企業の特徴を整理し、自分の特性とのマッチングについて考察する。 14回 職場のストレスとメンタルヘルス① ストレスとストレス・コーピングについて解説する。 職場うつについて解説する。 [演習問題] 準備学習：職場における心理的な不適応の事例について調べる。 課題：ストレスモデル、うつの発生のモデルについて理解する。 15回 職場のストレスとメンタルヘルス② 職場うつやその他の精神疾患の基礎的事項について解説する。 第13講の確認テストについてAL③をおこなう。 準備学習：自らのストレス・コーピングの特徴について理解する。 課題：企業におけるうつ病の予防等、メンタルヘルス対策の状況について調べる（AL④）。
授業形態	講義 アクティブラーニング：①0回、②6回、③2回、④10回、⑤0回、⑥0回
達成目標	a) 社会的認知の特徴を理解する（基礎） b) 職場を含む集団における人の行動と心理について理解する（基礎） c) 説得場面、消費場面における心理的側面について理解する（基礎） d) 講義内容を日常行動との関連を論理的に説明できる（応用） e) 自己分析データを正確に読み取り、自己の心理特性を説明できる（応用） f) 社会心理学の調査結果を正しく読み取ることができる（応用）
評価方法・フィードバック	講義内で行う演習（40％）と、授業時間外に実施する2回の確認テスト（レポート形式）（60％）で評価する。 演習およびテストについては、終了後速やかに、評価のポイントについてフィードバックする。
評価基準	秀（a～f）：100～90点 優（a～fのうち5項目）：89～80点 良（a～fのうち4項目）：79～70点 可（a～fのうち3項目）：69～60点 不可：59点以下
教科書・参考書	教科書：なし（授業担当者が作成したプリント資料を配布する） 参考書：講義内で適宜紹介する。
履修条件	なし
履修上の注意	講義には必ず出席すること。 講義中の私語およびノートPC、携帯電話・スマートフォンの私的な使用を厳禁する。
準備学習と課題の内容	①授業計画中に記載されている「課題」と、配布資料および授業中に作成した講義メモに基づいて、毎回の授業内容の復習を必ず行うこと（計2.0時間）。 ②授業計画中に記載されている「準備学習」の内容（1.0時間）を必ず行うこと。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解50％，思考・判断30％，関心・意欲10％，態度10％，技能・表現0％
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	